

I

学部教育の理念と目標

- 学部教育の理念と目標

学部教育の理念と目標

福岡大学の理念と薬学部教育研究の目的

薬学部長 ● 松 末 公 彦

I. 建学の精神

福岡大学の建学の精神は、時代や社会の変動・変遷にかかわらず常に一貫して存在価値を高め現在にいたっています。建学の精神としてかかげている「思想堅実」「穏健中正」「質実剛健」「積極進取」のそれぞれの精神は、人格形成のうえで一体となって本学教育の基本理念となっています。

“**思想堅実**” 考えや考え方が、自然の法則や人と社会の在り方に広く、深く根ざしていること

“**穏健中正**” 穏やかでしっかりしており、公正・公平で偏りが無いこと

“**質実剛健**” 言葉や容姿を飾ることなく、誠実で、心身ともに強く健やかであること

“**積極進取**” 積極的に、自らの道を切り拓くこと

II. 福岡大学教育研究の理念（3つの共存）

・「人材教育」と「人間教育」の共存

「人材教育」と「人間教育」は、共存することによって「知」と「心」を磨き、高い倫理観をもって社会的責任を果たし、真に豊かで夢を描くことができる社会づくりに貢献する21世紀型市民の育成を可能とします。

・「学部教育」と「総合教育」の共存

「学部教育」と「総合教育」は、共存することによって学部や大学院における専門分野に特化した教育研究を異分野横断型の学際的教育研究へと発展させ、より高いレベルの新しい知と技術を創造しそれらを社会に還元していくことを可能とします。

・「地域性」と「国際性」の共存

「地域性」と「国際性」は、共存することによって地域を支える人材を育てるとともに、国際的に活躍できる、異文化を理解する寛容な精神をもった人材の育成を可能とします。

III. 「薬学部薬学科教育研究の目的」と「福岡大学の理念」とのつながり

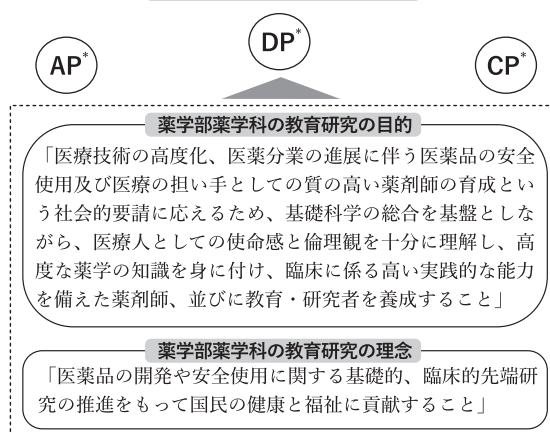
“「人材教育」と「人間教育」の共存” とのつながり

薬学部では、医療人としての「人材教育」と、豊かな人間性を育む「人間教育」の両方を大切にしています。たとえば、高度な薬学の知識や実践的な臨床能力を身につけることは、医療人教育です。一方で、医療人としての使命感や倫理観を育むことは、人間教育です。つまり、技術と心の両方を持ち合わせた薬剤師を育成することが薬学部の使命です。

“「学部教育」と「総合教育」の共存” とのつながり

薬学部では、薬学の専門教育だけでなく、幅広い科学知識を学ぶことも重視しています。薬剤師になるための専門的な知識や技能を学ぶのは、もちろん大切な「学部教育」です。しかし、それだけでなく「基礎科学の総合」を基盤とすることで、より広い視野と深い洞察力を持った薬剤師や研究者を育成することが重要です。これは「総合教育」の考え方そのものです。

薬学部薬学科の3つのポリシー



福岡大学教育研究の理念

「人材教育」と「人間教育」の共存、「学部教育」と「総合教育」の共存
「地域性」と「国際性」の共存

建学の精神

思想堅実 穏健中正 質実剛健 積極進取

* AP: アドミッションポリシー、DP: ディプロマポリシー

CP: カリキュラムポリシー

「地域性」と「国際性」の共存」とのつながり

薬学部では、地域の医療に貢献できる人材と、国際的な視野を持つ人材の両方を育てることを目指しています。地域の薬局や病院で、安全に医薬品を提供できる薬剤師を育てることは、地域への貢献につながります。同時に、最新の医療技術に対応できる能力や研究者としての素養を育てることで、グローバルに活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

このように、薬学部教育研究の目的には大学の理念をバランスよく取り入れています。専門知識と人間性、専門分野の深い学びと幅広い教養、地域への貢献と国際的な活動、これらをすべて包含した「全人教育」の理念のもと、確かな知識と豊かな人間性を兼ね備えた薬剤師や研究者の輩出を目指し、全人教育の理念に基づいた教育を実践していくことが福岡大学薬学部の崇高な使命です。

IV. 薬学部教育研究の現状

近年の社会状況の変化、全人的医療への転換など21世紀の新しい医療のあり方を背景に、全国薬学

薬学部 DP

1. 幅広い教養と基礎的科学力を身に付け、高度な薬学の知識を理解している。
2. 薬の専門家として必要とされる臨床に係る高い実践的な能力を備えている。
3. 教育・研究能力を有し、医療人としての倫理観、使命感、責任感を持っている。

部は平成18年度より4年制学部に加え、6年制学部が導入されました。これを機に、福岡大学薬学部も6年制薬学科に一本化し、本学の「建学の精神と三つの共存（教育研究の理念）」のもと、「医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床的先端研究の推進をもって国民の健康と福祉に貢献すること」を教育研究の理念としました。この理念に基づき、「医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用及び医療の担い手としての質の高い薬剤師の育成という社会的要請に応えるため、基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身に付け、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに教育・研究者を養成すること」を教育研究上の目的としています（前ページ図参照）。この目的を達成するための本学部のディプロマポリシー（DP 学位授与の方針）は、3項目（上図薬学部 DP 参照）からなり、これらの能力を修得した者に対して学士（薬学）の学位を授与しています。

令和4年度、全国6年制薬学部共通の教育指針である薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改定を受け、本学部は教育カリキュラムを大幅に改正いたしました。新カリキュラムでは、全科目を基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、臨床薬学、薬学研究の各分野に体系的に分類し、段階的な学習を可能としました。また、実践的な薬物療法や感染制御を学ぶための臨床系演習科目およびアクティブラーニング科目を拡充するとともに、医療業界の急速なAI・デジタル化に対応するため、ICT関連科目も新設しました。さらに、高度な専門性を持つ薬剤師の育成を目指し、既存の「がん薬物治療学コース」に加え、「感染症薬物治療学コース」を新たに設置しました。「感染症薬物治療学コース」を設置することで、新たに感染症対策や治療の専門知識を学ぶ機会を提供し、感染症に対して効果的な薬物療法を実践できる薬剤師の育成を強化しています。これらのコースでは、各専門分野に特化した知識・技能を講義・演習・実習を通じて体系的に修得することができます。教育支援体制においては、低学年のリメディアル教育に力を入れ、薬学教育支援センターの専任教員によるリメディアル授業や専門科目の確認試験に基づく補講授業を実施しています。また、教育支援の充実と薬学教育の質的向上を目指し、新たに薬学教育学研究室を設置し、教育手法の研究や教材開発を行い、より効果的な薬学教育の実現に取り組んでいます。これらを含む薬学部の新たな教育体制は、薬学共用試験および薬剤師国家試験における高い合格率の維持・向上に寄与するものと確信しています。

福岡大学の特長として、同一キャンパス内に医学部および大学病院を有し、実務実習などの総合医療（チーム医療）教育において優れた環境を提供しています。さらに、多様な理系・文系学部との共存により、充実した全人教育・教養教育の場を実現しています。薬学部は今後も、医療人としての確固たる倫理観と研究マインドを持ち、国民の健康と福祉に貢献する薬剤師および教育・研究者の輩出に邁進していきます。